



農作業メモ

秋野菜（アブラナ科）の栽培管理（育苗期）について

秋野菜は、日照量や気温が低下し、野菜の生育もゆっくりとなる時期に栽培するため、適期に作業を行うことがとても重要です。また、育苗時期は、高温・乾燥、または台風による大雨など、様々な天候が予想されます。苗半作と言われるように、良質の苗を育て、安定した生産が行えるよう、計画的な栽培管理を行います。

1 育苗管理（セル成型苗）

軟弱徒長がなく、根量の多いがっちりとした苗作りを目指しましょう。

(1) は種く育苗初期

□は種後のトレイはたっぷり灌水

は種し、覆土をしたトレイには、たっぷり灌水し、濡れた新聞紙で覆い乾燥を防ぎましょう。また、温度は25度以上にならないよう、直射日光の当たらない軒下など、涼しい場所に置きましょう。

□発芽し始めたら、新聞紙はすぐ除去

発芽から本葉展開までが一番徒長しやすいため、発芽し始めたら新聞紙

は直ちに除去し、日に当てるようにしましょう。ただし、日射しが強い場合は、寒冷紗などで一時遮光をしましょう。

□灌水は早朝に

灌水は早朝にたっぷり行います。本葉1〜2枚までは乾かし過ぎないように注意しましょう。苗の徒長を防ぐため、夕方や曇雨天の日の灌水はできるだけ控えましょう。

□トレイは風通し良く

トレイは地面にベタ置きにせず、ブロックなどを利用した台に置き、底穴を空気にさらすようにしましょう。

(2) 育苗後期

□灌水は丁寧に、控えめに

育苗期後半の灌水は、苗の徒長を防ぐため控えめにしますが、植物体が大きくなり、灌水ムラがでやすくなるので、丁寧にいきましょう。

2 病害虫防除対策

育苗期には、気象条件により下記の

病害虫が発生しやすくなるので、表を参考に適期防除を実施しましょう。

(1) 苗立枯病

育苗期や定植直後に胚軸の地際部が侵され、くびれて褐色や白色に変色・腐敗、枯死します。

(2) ベと病

下葉に淡黄色の不規則な形の病斑ができます。苗床から本葉まで、継続して発病します。

(3) ハイマダラノメイガ(シンクイムシ)

夏季が高温・少雨の年に多発生する傾向があります。生長点を食害するため、商品価値がなくなります。

その他、夏季が高温の年は、ハスモンヨトウなども多く発生する傾向があるので注意して下さい。



ブロッコリー苗ベと病
(写真提供 埼玉の農作物病害虫写真集)

農業を使用する際は必ず農薬のラベルを確認し、周辺作物への飛散防止に努めましょう。

(農薬登録内容は平成30年7月3日農薬登録情報)

表 薬剤例

適用病害虫	農薬商品名	使用方法	希釈倍率・使用量	使用時期	作物名
苗立枯病	リゾレックス水和剤	土壌灌注	500倍・3 $\frac{1}{2}$ g/m ²	育苗期	ブロッコリー※1
		散布	500~1000倍	収穫7日前まで	キャベツ※2
べと病	オーソサイド水和剤80	散布	600~1200倍	収穫7日前まで	はくさい
			600倍		キャベツ
			1000倍		はくさい
ハスモンヨトウ	ダコニール1000	散布	1000倍	収穫14日前まで	キャベツ
				収穫7日前まで	はくさい
ハイマダラノメイガ	ランマンフロアブル	散布	2000倍	出蕾前(但し収穫21日前まで)	ブロッコリー
				収穫3日前まで	キャベツ・はくさい・ブロッコリー
ハイマダラノメイガ	プレバソンフロアブル5	灌注	100倍・0.5 $\frac{1}{2}$ g/育苗トレイ1箱	育苗期後半~定植当日	ブロッコリー・キャベツ
				定植時	キャベツ・はくさい
ハイマダラノメイガ	ダントツ粒剤	植穴処理 土壌混和	1~2 $\frac{1}{2}$ g/株	定植時	キャベツ・はくさい
			2 $\frac{1}{2}$ g/株		ブロッコリー

※1 苗立枯病(リゾクトニア菌)で登録

※2 キャベツは、苗立枯病と同じ病原菌が原因の株腐病で登録